

マガン

Anser albifrons

カモ科・旅鳥

名前の由来

ガンの中では代表的な鳥という意味。マガンやヒシクイは「グワーン」と鳴き、ガンという名はそこからつけられた。ガンはカリともいい、それはカヘリの略。春は北へ帰っていくから。漢字名：真雁



マガン

特定種

文化財保護法：国指定天然記念物

北海道レッドデータ：希少種 (R)

国レッドリスト (2007)：準絶滅危惧種 (NT)

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）72cm。体は灰褐色で背には淡色の横班があり、腹には不規則な黒色の横じまがある。尾は黒褐色で先端が白い。くちばしはピンクまたはオレンジ色で先は白く、くちばしの基部の周囲が白い。足はオレンジ色。

聞こえる声でなく。

声：少し甲高い「クッハハン、クッハハン」と聞こえる声でなく。飛び立ったときには盛んに鳴き交わし、飛んでいるときにもよく鳴くが、上空で編隊を組んで飛ぶときは、時々鳴くだけだという。ねぐらにする沼ではほとんど一晩中鳴き声が聞こえる。



マガン。オレンジ色のくちばしの付け根に白い部分

飛び方：「竿（さお）になり鉤（かぎ）になり」の隊列を組んで飛ぶ。

類似種と区別点：カリガネ、ヒシクイ。



類似種ヒシクイ。黒っぽいくちばしの先近くに明るいオレンジ色

カリガネは小さく、くちばしも短くて淡紅色。くちばしの基部の白色部は範囲が広く、頭頂にまで達する。目の周囲に細い黄色い輪がある。

ヒシクイは少し大きくて色が濃く、特に頭部から首は暗色に見える。マガンより少し太い「グッハハン、グッハハン」と

生息環境・分布

水田、湿地、湖沼、干潟、内湾。十勝では旅鳥で9～11月、3～4月に見られる。

北海道では旅鳥。春と秋に湖沼、水田、草地などに多数飛来する。最近渡来数が増加している。また日高地方静内では1995年12月以来少数が越冬するようになっている。十勝では旅鳥。春と秋、十勝川下流部や生花苗沼などの海跡湖に多数訪れる。

分布：ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の北極圏に繁殖分布し、両大陸南部に渡って冬を過ごす。

日本には冬鳥として九州北部以北に渡ってくる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期			■	■					■	■		
北極圏 (繁殖期)				■	■	■	■	■	■			
九州北部以北 (越冬期)	■	■	■							■	■	

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

食性・他生物との関わり

草の葉・茎・地下茎・根茎・種子・果実などを食べる。湿地の地上を歩きながら採食し、畑地で麦の葉をむしったりもする。また水面ではくちばしをグチャグチャと動かしてこすようにしたり、首を入れたり、上半身を逆立ちするように入れたりして水草等を食べる。



牧草地のマガン

繁殖生態

日本では、冬鳥（北海道では旅鳥）であって、繁殖しない。繁殖はユーラシア大陸と北アメリカ大陸の北極圏で行われる。繁殖地では矮性灌木が多いツンドラ地帯の乾いたところや沼沢地にすむという。

繁殖期は5～7月で、一夫一妻で繁殖する。

巣は地上のくぼみに、地衣類、コケ、葉、枝などによって皿形に作られる。オスメス共同で作られるが、大部分はメスが作り、産座には自分の綿羽を敷くという。

4～7個の卵を産み、メスのみが抱く。27～28日くらいで

ヒナがかえり、まもなく巣から離れる。

ヒナの世話は両親が行い、40～43日くらいで飛べるようになるという。

興味深い話

■「ガン」の名前の由来としては、雁（カリ）などの鳥名を、鎌倉時代、軍記物で語調を強めるために漢名の音読みにして、そこから「ガン」という呼び名が広まったという説もある。

■カモ類と違ってつがいの結びつきが強く、一方が死ぬまでつがいのままだという。

■繁殖期にはつがいで分散する。家族は換羽地や越冬地には群れで入って移動し、最初の秋と冬をいっしょに過ごす。

■越冬地ではつがいと前年に生まれた数羽の幼鳥からなる家族を単位として行動し、それが集まって大きな群れを形成している。

■群れは数百から数千羽になり、群れの中で小グループが対立し、脅しなどのディスプレイ（他の個体に対する誇示行動）がある。

■日本では、65,000～80,000羽くらいが越冬しているがその大部分は宮城県伊豆沼に生息しているという。

■百羽台の大群が現れるのは島根県あたりまでであるが、沖縄県西表島にも8羽来た記録があるという。

■越冬地では昼間は安全な池や沼で休息し、早朝などに水田地帯に飛来して採餌するという。

■十勝地方のアイヌ語では「クイトプ」という。



3～4つの編隊に分かれて飛ぶマガンの群れ

配慮事項

渡りの中継地として、埒（ねぐら）になる広い開放水面と、近隣に餌になる草がある畑地や草地が必要。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)

「原色日本野鳥生態図鑑(水鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房

1993

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978
「山川弘氏からの聞き取り記録」内田祐一 (未発表)

横田義男ほか (1982) 日本のガンの分布、羽数および生息状況。鳥30 (4)

Cramp, S. & K. E. L. Simmons (1977) Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa. Vol. II. Oxford Univ. (eds.) Press, Oxford.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ